

神戸大学平和フォーラムから六甲祭参加者のみなさんへ

今年9月19日、国会で「安全保障関連法」が可決成立しました。

この法案に対しては、かつてない規模で全国各地に反対運動が広がりました。神戸大学でも7月30日に「安全保障関連法案に反対する神戸大学緊急集会」が開催され、教員、職員、学生、院生、卒業生など180人を超える神戸大学関係者が参加しました。後掲の新聞記事をご覧ください。

広汎な反対運動にもかかわらず安全保障関連法は成立しました。しかし、この法律がきわめて危険なものであることは、改めて、繰り返し指摘されなければなりません。安全保障関連法は、自衛隊が集団的自衛権を行使することを可能にし、また、世界各地で軍事行動を展開するアメリカ軍に対して弾薬提供を可能にするなど、従来憲法九条のもとで自衛隊に課されていたさまざまな制限を取り払う、明確な憲法違反の法律です。そして日本は再び「戦争する国」になろうとしています。自衛隊が、日本を直接攻撃していない国に対して、同法に基づき先に攻撃するという事態が今後起こりえるのです。

だから私たちは、法律が成立したからといって、「終わり」にするわけにはいかない、安全保障関連法の発動を阻止し、同法を廃案にしなければならないと強く思います。それを目指して、神戸大学を拠点とした新しい運動のネットワーク「神戸大学平和フォーラム」(<http://iws1970.web.fc2.com/forum.html>)が先日発足しました。

ぜひみなさんのご協力とご支援をお願いします。一緒に声をあげましょう。このビラの下と裏面の企画案内もご覧ください。

神戸新聞 2015年7月31日朝刊



神戸大から「安保反対」

参院で審議中の安全保障関連法案に反対する神戸大学緊急集会が30日、神戸市灘区の大であり、教員や学生ら約180

人が集まった。試験の最中だったが、学生らが「民主主義と立憲主義を守ろう」と声を上げた。(撮影・木村信行、32面に関連記事)

戦後70年
岐路
憲法・安保

「安全保障関連法案に反対する緊急集会」が30日に開かれた神戸大(神戸市灘区)。学生らが次々とマイクを握り、「重要な法案を二政権で決めていいのか」「大学人の役割を果たそう」などと訴えた。(一面参照)

神戸大で安保法案抗議集会

学生ら次々マイク握り

「私の故郷は昔、日本に植民地支配された。今の日本は人種差別を許さず、過去の歴史は覚えなければならない」と語り、准教授(45)が「反対世論の存在を学内外に示そう」とあいさつし、学生や教員10人がスピーチした。大学院生の小谷真知代さん(26)は「多様な意見をよく聞き、考えを導く」と語り、答えを導かず、路上やネットや居酒屋を対抗空間をつくり出すと強調。台湾からの留學生、劉麗均さん(30)は「私たちが声をあげよう」と呼び掛けた。(木村信行)

「反対世論の存在示そう」

ドキュメンタリー「冬の兵士」上映会日時：2015年12月5日(土)上映：13:40~15:00 話し合い：15:10~16:00。場所：生活創造センター セミナー室(A・B) JR神戸駅東南・クリスタルビル5F。参加費：無料(予約不要)。主催：KOBÉ ピースiネット <http://peace2014.blog.fc2.com/>